

東京海上セレクション・ 外国債券

追加型投信／海外／債券

交付運用報告書

第22期（決算日2023年6月20日）

作成対象期間（2022年6月21日～2023年6月20日）

第22期末（2023年6月20日）	
基準価額	21,339円
純資産総額	14,588百万円
第22期	
騰落率	4.1%
分配金（税込み）合計	0円

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しています。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めています。運用報告書（全体版）は、東京海上アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記の<照会先>ホームページにアクセス
⇒「基準価額一覧」等から対象ファンドを選択
⇒「運用報告書」ボタンを選択
⇒「運用報告書」ページから閲覧・ダウンロード

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「東京海上セレクション・外国債券」は、このたび、第22期の決算を行いました。

当ファンドは、外国の国債を実質的な主要投資対象とし、FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）を上回る投資成果を目標として運用を行います。当期についても、この方針に基づき運用を行いました。

ここに、当期の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

<照会先>

- ホームページ

<https://www.tokiomarineam.co.jp/>

- サービスデスク

0120-712-016 受付時間：営業日の9時～17時

東京海上アセットマネジメント

東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング

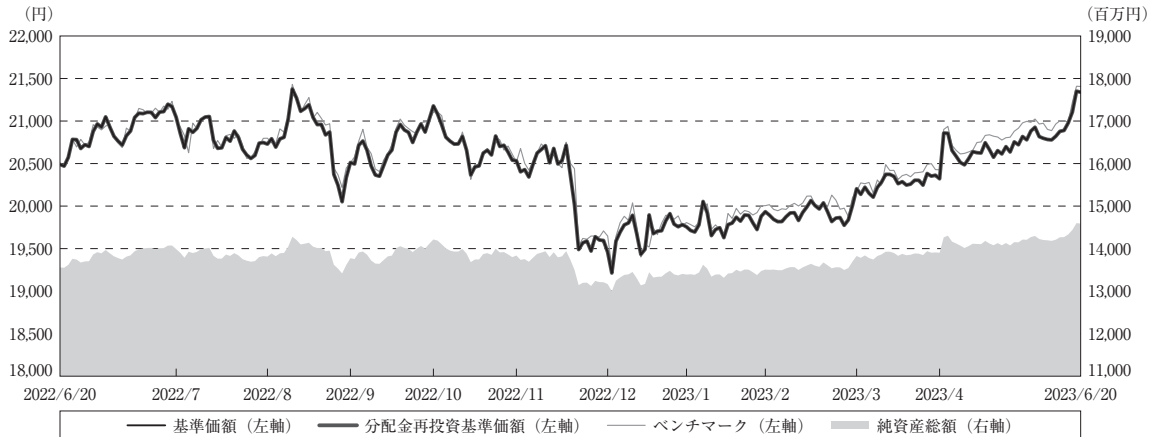
【本資料の表記について】

原則、各表・グラフの金額の単位未満は切り捨て、比率は四捨五入で表記していますので、個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2022年6月21日～2023年6月20日)



期首：20,490円

期末：21,339円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率： 4.1% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首(2022年6月20日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)です。詳細は4ページをご参照ください。

○基準価額の主な変動要因

プラス要因

- ・保有債券の利息収入
- ・内外金利差の拡大による円安の進行

マイナス要因

- ・各国中央銀行の金融引き締め政策による世界的な国債利回りの上昇(債券価格は下落)

1万口当たりの費用明細

(2022年6月21日～2023年6月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	234	1.144	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率
(投信会社)	(112)	(0.550)	* 委託した資金の運用、基準価額の計算、目論見書作成等の対価
(販売会社)	(112)	(0.550)	* 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受託会社)	(9)	(0.044)	* 運用財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	5	0.026	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(保管費用)	(5)	(0.022)	* 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(1)	(0.004)	* 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(0)	(0.000)	* その他は、信託事務等に要する諸費用
合 計	239	1.170	
期中の平均基準価額は、20,447円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しています。

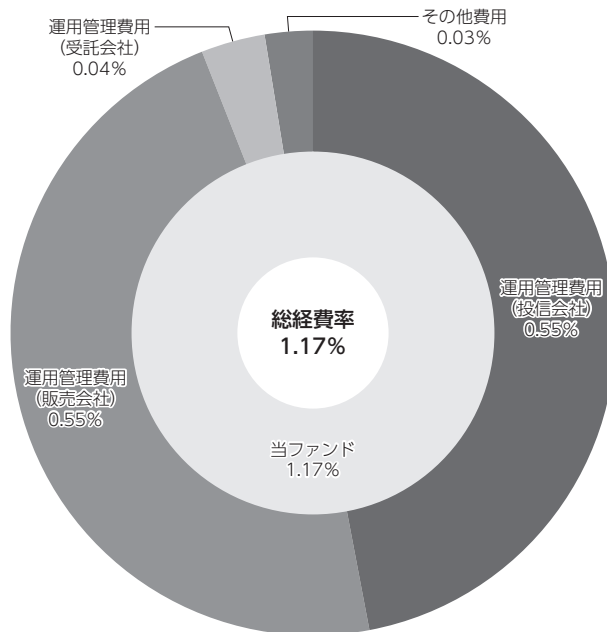
(注) その他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.17%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

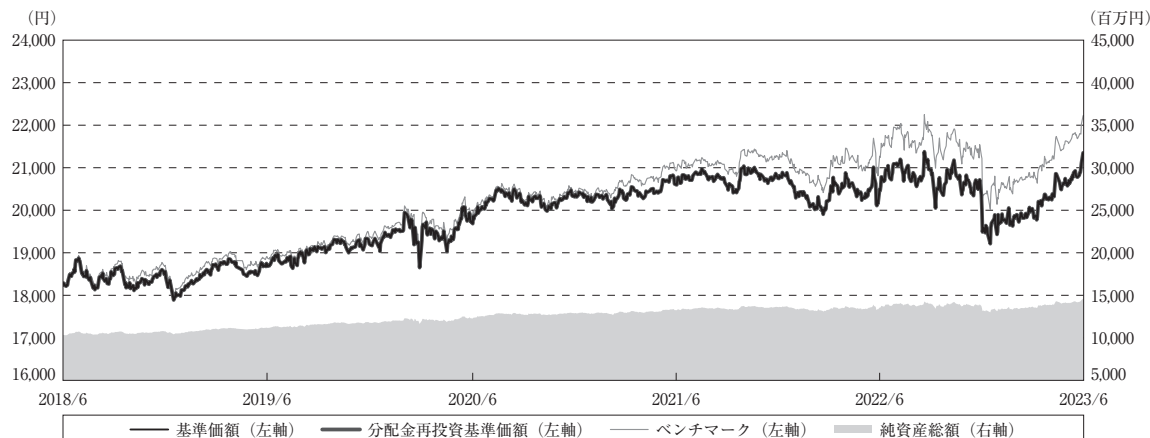
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年6月21日～2023年6月20日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2018年6月20日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2018年6月20日 決算日	2019年6月20日 決算日	2020年6月22日 決算日	2021年6月21日 決算日	2022年6月20日 決算日	2023年6月20日 決算日
基準価額 (円)	18,250	18,683	19,685	20,600	20,490	21,339
期間分配金合計(税込み) (円)	-	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	2.4	5.4	4.6	△ 0.5	4.1
ベンチマーク騰落率 (%)	-	3.6	5.2	5.1	1.7	4.5
純資産総額 (百万円)	10,322	11,170	12,270	13,250	13,557	14,588

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

●ベンチマークに関して

ベンチマークはFTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)であり、基準価額への反映を考慮して、前日の値を用いています。

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

投資環境

(2022年6月21日～2023年6月20日)

【外国債券市場】

米国債利回りは上昇しました。

世界的にインフレの高止まりが懸念されるなか、FRB（米連邦準備制度理事会）が大幅な利上げを継続したことで、米国債利回りは期初から上昇基調で推移しました。期中、雇用統計やCPI（消費者物価指数）に一時落ち着きが見られ、FRBによる金融引き締め継続懸念が後退したことや、米国地方銀行の破綻を受けた金融システム不安の高まりなどから、米国債利回りは低下（債券価格は上昇）基調に転じましたが、前期末対比では上昇して期を終えました。

ドイツ国債利回りは上昇しました。

資源価格の高騰などからインフレが高進するなか、ECB（欧州中央銀行）による金融引き締め政策などを背景に、ドイツ国債利回りは上昇基調で推移しました。期後半に米国地方銀行の破綻をきっかけとした欧米金融機関に対する信用不安の高まりからドイツ国債利回りが低下する局面もありましたが、その後横ばい圏で推移し、前期末対比では上昇して期を終えました。

【為替市場】

米ドル円為替レートは、米国のインフレ率の高まりやFRBの金融引き締め姿勢を受けて米国債利回りが上昇したことによる日米金利差の拡大を背景に、期初から円安米ドル高となりました。期中、FRBによる利上げ継続への懸念が後退したことや、日銀が金融政策決定会合で長期金利の変動許容幅を拡大したことから円高米ドル安となりましたが、期後半は日銀が金融緩和政策を維持したことなどから再度円安米ドル高に転じ、前期末対比では円安米ドル高となり期を終えました。

ユーロ円為替レートは、インフレ率の高止まりやECBによる大幅な利上げの継続などを受けて、円安ユーロ高基調で推移しました。米国のCPIが事前予想を下回ったことなどを背景に世界的に利上げ継続懸念が後退し、円高ユーロ安となる局面もありましたが、ユーロ圏の景気は底堅いとみられたことや、ECB高官による金融引き締めに関する積極的な発言などから、前期末対比では円安ユーロ高の水準で期を終えました。

ポートフォリオについて

(2022年6月21日～2023年6月20日)

<東京海上セレクション・外国債券>

「TMA外国債券マザーファンド」を主要投資対象とし、高位の組入比率を維持しました。当ファンドの基準価額は、マザーファンドの値動きを反映し、4.1%上昇しました。

<TMA外国債券マザーファンド>

国別配分、デュレーション調整、銘柄選択を実施することによって、ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）を上回る収益率を目標に運用しました。

【国別配分】

米国、ユーロ圏は、市場環境に応じてベンチマーク対比で柔軟にウェイト調整を行いました。英国はベンチマーク対比オーバーウェイト（ベンチマーク構成比に比べて多く保有）を基本としつつ、市場環境に応じて機動的に調整しました。

【デュレーション調整】

米国、ユーロ圏ともにベンチマーク対比長期化を基本としつつ、市場環境に応じて機動的に調整しました。

【銘柄選択】

イールドカーブ（債券の残存期間と利回りの関係を表す曲線）を分析し、割安と考える銘柄を投資対象として選択しました。

以上の運用の結果、基準価額は5.3%上昇しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年6月21日～2023年6月20日)

基準価額の騰落率は+4.1%となり、ベンチマークの騰落率+4.5%を、0.3%下回りました。

(主な差異要因)

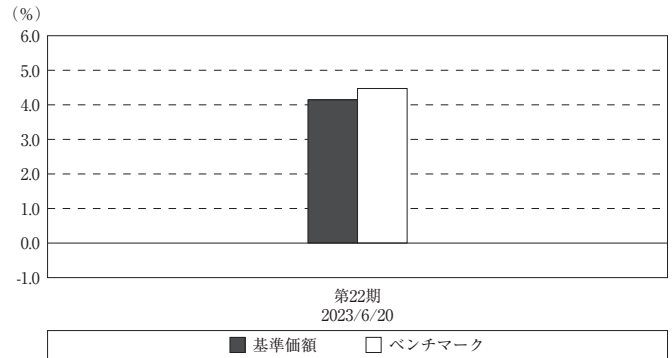
プラス要因

- ・ 国別配分が奏功したこと

マイナス要因

- ・ 信託報酬などのコスト

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）です。詳細は4ページをご参照ください。

分配金

(2022年6月21日～2023年6月20日)

当期においては、当ファンドが確定拠出年金向けに設定されたファンドであるという性格を鑑み、収益分配を行わないこととしました。収益分配に充てなかった収益については信託財産内に留保し、当ファンドの運用方針に基づいて運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万円当たり、税込み)

項目	第22期
	2022年6月21日～ 2023年6月20日
当期分配金	-
(対基準価額比率)	- %
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	12,714

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

<東京海上セレクション・外国債券>

「TMA外国債券マザーファンド」を主要投資対象とし、高位の組入比率を維持します。

<TMA外国債券マザーファンド>

【国別配分】

世界的にインフレの高止まりが懸念されているなか、当面は欧米の中央銀行による金融引き締め長期化が見込まれるため、円安米ドル高、円安ユーロ高の圧力がかかりやすい市場環境が継続すると考えます。一方、中長期的には世界的な景気後退懸念の高まりや日銀の金融政策修正も意識されることから、円高基調に転じる展開も想定されます。このような環境下、相対的に金利の高い国のオーバーウェイトを検討しつつ、状況に応じて柔軟に国別配分を変更する方針です。

【デュレーション調整】

インフレ高止まりを背景とした主要国の中央銀行による金融引き締めの長期化などには注意が必要であるものの、中長期的には世界的な景気後退懸念の高まりから金利が低下基調となる展開が予想され、デュレーションはベンチマーク並みかそれ以上の範囲を基本としつつ、状況に応じて機動的にエクスポージャーを調整する方針です。

【銘柄選択】

イールドカーブを分析し、割安な銘柄を投資対象として選択する方針です。

お知らせ

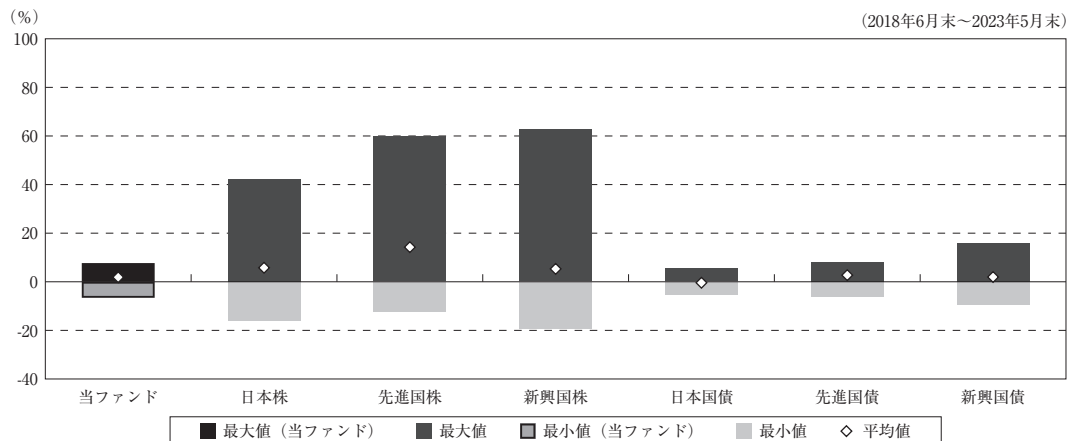
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券 (課税上は株式投資信託として取扱われます。)	
信託期間	無期限 (2001年9月25日設定)	
運用方針	信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	東京海上セレクション・外国債券	TMA外国債券マザーファンド
	TMA外国債券マザーファンド	外国の国債
運用方法	外国の国債を主要投資対象とする「TMA外国債券マザーファンド」に投資し、FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）を上回る投資成果を目標とします。ポートフォリオは、国別配分、デュレーション調整、銘柄選択を付加価値の源泉として構築します。なお、実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
分配方針	毎決算時（原則として6月20日）に経費控除後の利子、配当等収益および売買益などのうちから、基準価額水準等を勘案して、分配を行う方針です。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	7.7	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	15.7
最小値	△ 6.6	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 9.4
平均値	1.9	5.8	14.2	5.3	△ 0.4	2.7	2.0

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年6月から2023年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものであり、騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ指数（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI（国債）

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年6月20日現在)

○組入上位ファンド

銘柄名	第22期末
TMA外国債券マザーファンド	100.0%
組入銘柄数	1銘柄

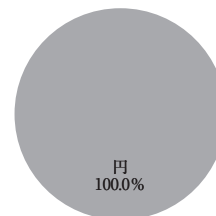
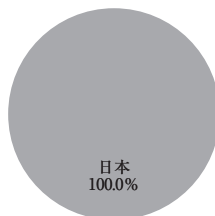
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しています。

○資産別配分

○国別配分

○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しています。

純資産等

項目	第22期末
	2023年6月20日
純資産総額	14,588,276,610円
受益権総口数	6,836,389,776口
1万口当たり基準価額	21,339円

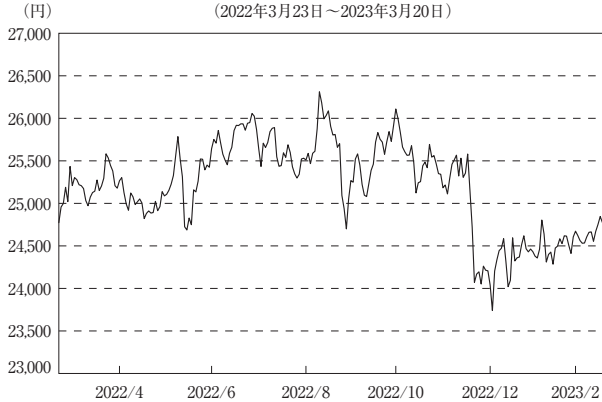
*期中における追加設定元本額は1,008,117,719円、同解約元本額は788,379,547円です。

組入上位ファンドの概要

TMA外国債券マザーファンド

【基準価額の推移】

(2022年3月23日～2023年3月20日)



【1万口当たりの費用明細】

(2022年3月23日～2023年3月20日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用	5	0.022
(保 管 費 用)	(5)	(0.022)
(そ の 他)	(0)	(0.000)
合 計	5	0.022

期中の平均基準価額は、25,216円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しています。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

【組入上位10銘柄】

(2023年3月20日現在)

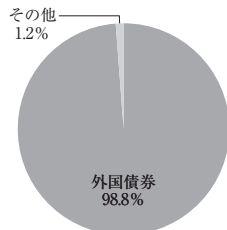
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
				%
1 T 3 1/8 11/15/28	国債証券	米ドル	アメリカ	3.8
2 T 0 5/8 07/31/26	国債証券	米ドル	アメリカ	3.2
3 T 1 07/31/28	国債証券	米ドル	アメリカ	2.3
4 T 2 3/8 02/15/42	国債証券	米ドル	アメリカ	2.2
5 T 0 1/4 10/31/25	国債証券	米ドル	アメリカ	2.2
6 T 0 1/2 10/31/27	国債証券	米ドル	アメリカ	2.1
7 T 0 5/8 11/30/27	国債証券	米ドル	アメリカ	2.1
8 T 2 3/8 04/30/26	国債証券	米ドル	アメリカ	2.0
9 BTPS 3 1/2 01/15/26	国債証券	ユーロ	イタリア	1.8
10 T 3 5/8 02/15/44	国債証券	米ドル	アメリカ	1.8
組入銘柄数			251銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

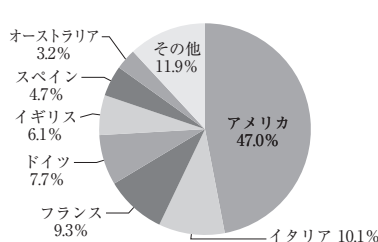
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

(注) 国(地域)につきましては発行国を表示しています。

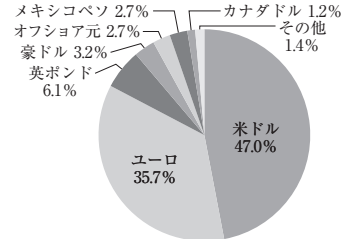
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しています。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

TOPIXの指数値およびTOPIXにかかる標章または商標は、株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社（以下、J P X）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用等TOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXにかかる標章または商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。

J P Xは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。ファンドは、J P Xにより提供、保証または販売されるものではなく、ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ P Xは責任を負いません。

○MSCIコクサイ指数（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ指数の著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI社に帰属します。また、MSCI社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI社の許諾なしにインデックスの一部または全部を複製、頒布、使用等することは禁じられています。MSCI社はファンドとは関係なく、ファンドから生じるいかなる責任も負いません。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスの著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI社に帰属します。また、MSCI社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI社の許諾なしにインデックスの一部または全部を複製、頒布、使用等することは禁じられています。MSCI社はファンドとは関係なく、ファンドから生じるいかなる責任も負いません。

○NOMURA – BPI（国債）

NOMURA – BPI（国債）に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックスは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

東京海上アセットマネジメント
YouTube公式チャンネル

ファンド・マーケット関連動画などを公開しています。

